

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 368 号

- 環境・農業・食べ物など情報の交流誌 -

2014.07.03 (木) 発行 山崎農業研究所 & 編集同人

< キーワード >

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所 & 『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

< 巻頭言 >

日本国民としての自由を侵されている今、

私たちは団結してあくまでも自由を守る。

——『図書館戦争』(有川浩)を読んで 塩谷哲夫

< 山崎農業研究所 総会・40周年記念行事のご紹介 >

2014年7月26日(土) 13:00~17:00

「山崎農業賞・山崎記念農業賞 受賞者に学ぶ」

< 山崎農業研究所 第148回定例研究会(速報) >

テーマ: 新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

日時: 2014年4月26日(土) 13:30~17:00

2. 農産品振興と輸出 - ブルキナファソを事例として

.....高木茂氏(NTC インターナショナル)

< 『内山 節著作集』全15巻・『哲学者 内山 節の世界』

発刊記念シンポジウムのご案内 >

< お知らせ > 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

< 編集後記 > これは「問答無用」ということか?

< 巻頭言 >

日本国民としての自由を侵されている今、

私たちは団結してあくまでも自由を守る。

——『図書館戦争』(有川浩)を読んで

『図書館戦争』シリーズ4巻・別冊2巻(2006~07)は400万部を超え、漫画、  
テレビ・劇場アニメになり、2013年には岡田准一、榮倉奈々共演(佐藤信介監  
督)で実写映画にもなった。作者は人気の女性作家有川浩。先ごろの連載 TV ド

ラマ『三匹のおっさん』の原作者である。

公序良俗を乱し人権を侵害する表現を取り締まる法律として『メディア良化法』が成立・施行された（「昭和の最終年度」ということになっている）。法務省はあらゆるメディアの良化を謳い文句に、火器で武装した「良化特務機関」を各都道府県に配置して、超法規的権限を持って書籍・映像作品・音楽作品などを任意で取り締まるに至る。一方、検閲の合法化自体が違憲であるとして、これに対抗するために反対派は図書館法を改正させ、図書館に図書隊を置き、武装した特殊部隊を育成した。そして30年。検閲・没収する良化隊と「狩られる本」を守る図書隊の抗争は火器による死傷者を出すほどまでに激化した。図書館の自由、表現の自由をめぐる両者の攻防を書いた小説である。

物語に興味はあったが、フィクションにしても、武器を取って戦うなんて荒唐無稽で、日本社会では“ありえない”なんて思って、私はちょっと退いた印象をもって読まずにいた。

ところが、昨年の中沢啓『はだしのゲン』をめぐるうごきや、政府による教科書採択への介入、教科書検定基準の改定や、教育委員会制度改定をつうじた首長の教育への権限強化の推進、政府に批判的な講演会や美術展への自治体の「自主規制」の増加など。こうした騒ぎを仕上げるかのように、多くの国民の反対や懸念の声を押し切って、政府は「特定秘密保護法」を強行成立させた。国民個人が自由にものが言えないように、じわじわと世の中に規制の網を張り巡らしてきている。

こうなると、武装闘争はないにしても、まるで『図書館戦争』だ。よしっ、読んでみよう...となったわけである。

小説家は大したものだと感心する。物語に組み込まれたエピソードの中に、図書室の本を規制しようとする大人に対する中学生達の抵抗、床屋の爺ちゃんに育てられた人気俳優が「床屋」を違反語とされたことに対する裁判闘争、茨城県美術館の展示『自由』をめぐる政府、県、良化隊、図書隊混然の激闘、敦賀原発が国際テロに襲撃された筋書きがそっくりだったとして作家に著作を禁じようとする権力と表現自由を守る戦い...いろいろと登場する。何年も前に今日のさまざまな事態が起きることを知っていたかのように驚かされた。

さて、現在のリアル日本。選挙で「国民」の支持を得た\*私に文句があるか

とばかりに思いあがった安倍首相は、国内外の彼らと価値観を異にする他者の声に耳を傾けることを拒み、平和憲法の下での 68 年間不戦日本の歴史を蹂躪して、戦争する国へと突き進んでいる。これは、かつて帝国主義日本が歩んできた道であり、再び歩んではならない道である。

7月1日。見え見えの出来レースの自民・公明の密室協議によって、「殺しても殺されてもいいから、海外での戦争に日本人を派遣する」ことを閣議で決めた。ただし、まだまだ私達個人の自由がこんな閣議決定で縛られるわけではない。閣議を具体的な行為にするまでにはたくさんの法改正や手続きが必要になる。それらの一つ一つの場面で、私たちは抵抗することができる。長い“戦争”になる。

有川が『図書館戦争』を書く気にさせた日本図書館協会の「図書館の自由に関する宣言」(1954年)。それは次の言葉で締めくくられている。

- “図書館の自由が侵される時、我々は団結して、あくまで自由を守る” -

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事 / 東京農工大学名誉教授

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

\* : 2012年の衆議院選挙で小選挙区が有権者の24%。比例代表は15%しかなかった。それにもかかわらず小選挙区制というまやかしの仕掛けによって61%もの議席をかすめとった。天下を取ったかのようにふるまう安倍政権だが、原発や自衛権をめぐる政策については国民の支持は得られない少数派である。

< 山崎農業研究所 総会・40周年記念行事のご紹介 >

山崎農業研究所は、本年で40周年を迎えることができました。

この40年間は、奇しくも減反政策導入とその見直しに、ほぼ一致し、混迷する農政に農業・農村が耐え忍んできた40年でした。

そして今、アベノミクス、成長戦略、農業改革そしてTPPと農業・農村を根底から揺るがすドリルの刃がいくつも用意されつつあります。

40周年記念会員総会は、そんな中でも、したたかに生きる現場の力に学ぶことをテーマとしました。

日時：2014年7月26日(土) 13:00~17:00

場所：ビッグスビル 地下2F

(喫茶室ルノアール新宿三丁目店 マイ・スペース6・7号室)

東京都新宿区新宿二丁目19-1 TEL:03-5379-2766

交通：東京メトロ丸の内線 新宿三丁目駅 E4またはE3出口 徒歩 約5分

#### 1、総会

#### 2、記念行事：「山崎農業賞・山崎記念農業賞 受賞者に学ぶ」

(1)経過と評価 中川昭一郎(顧問)

(2)在来品種を磨く 野口種苗 野口 勲

(3)家族農業を守る 齋藤敏之

(4)耕してこそ農業 福島県有機農業ネットワーク 大河原海

会員外の方の参加を歓迎します。

参加を希望される方は事前に事務局・益永までご連絡ください

TEL.03-3357-5916(益永) FAX.03-3357-3660

e-Mail: [y.masunaga@ntc-c.co.jp](mailto:y.masunaga@ntc-c.co.jp)

#### <山崎農業研究所 第148回定例研究会(速報)>

日時：2014年4月26日(土) 13:30~17:00

場所：東京都千代田区三崎町3-6-15 内海ビル101会議室

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

#### 1. 紛争終了地域のコミュニティ再生と技術支援

.....岩本彰氏(NTCインターナショナル・代表取締役社長)

#### 2. 農産品振興と輸出—ブルキナ・ファソを事例として

.....高木茂氏(NTCインターナショナル)

#### 3. アフリカにおける生活改善活動—日本の経験を通じて

.....服部朋子氏(NTCインターナショナル)

#### 2. 農産品振興と輸出—ブルキナ・ファソを事例として

.....高木茂氏(NTCインターナショナル)

従来の農業・農村支援は貧困改善、生産基盤整備、モノカルチャー推進が主力であった。新しい開発支援計画では販売・マーケティングに力をいれている。生計的支援から市場指向型農業支援に力点移った。このような状況の中で、西アフリカのブルキナ・ファソを事例としてアフリカの農産品振興と輸出について現地調査の報告をする。

ブルキナ・ファソはアフリカ 56 カ国の一つで西側、ガーナの北側にある人口 1750 万人を有し、面積は日本の約 7 割、年雨量 300mm ~ 1200mm、また農業生産自給用作物として、ソルガム、メイズ、ミレット、ササゲ、さらに、換金作物として綿花、ゴマなどがある。輸出は金、綿花、シアバター、ゴマ等、また、輸入は石油製品、コメ。日本との交易では輸出はゴマ、輸入では自動車等があげられる。伝統的食糧はミレット、ソルガム、イモ類、トウモロコシ生産であったが、現在はコメ、コムギなどを輸入に頼る方向に移行しつつある。

調査目的はブルキナ・ファソの農産物の輸出振興と輸入削減に役立つマスタープラン（総合基本計画）及びアクションプラン（行動計画）策定にある。

マスタープランでは市場指向型農産物の多様化を進め、農民の収入向上を図る。また国内需要のものを自国で生産できるように、農業振興政策をつくる。アクションプランとして、マンゴー生産・輸出、タマネギは国内向け生産の向上、イチゴは近隣国 + 国内向け、ダイズは国内と隣国向けなど、各種作物の性格付けを行い、それぞれのプランを作成することとした。

マンゴー輸出振興政策では商品価値の高い品種を栽培する。総生産 12 万 ~ 15 万トン、内 5 万トンを主にヨーロッパ、中近東、ドライフルーツとして主にヨーロッパへ輸出する。世界的に生産ベルト（気候帯）があって、この気候帯に乗せて栽培地の整備計画を立てる。

タマネギは主に国内需要である。この数年で著しく生産が増大したが、乾期と雨期があって雨期では輸入で、価格は 4 倍も高くなる。このために国内生産の増強が必要。

イチゴはあまり知られていない特産品で西アフリカには競争生産国はない。今後、輸出で伸びる可能性がある。国内ではホテル、レストラン用に栽培する。

サイズも他の農業生産と同じようにブランド形成を目指す。大豆油、豆乳、家畜飼料（搾油粕）などに加工するなどして付加価値を高める。

プロジェクトでは以上の4作物（マンゴー、タマネギ、イチゴ、大豆）の振興で農村住民の収入向上を図ることとしている。

（文責：安富・田口）

< 『内山 節著作集』全15巻・『哲学者 内山 節の世界』  
発刊記念シンポジウムのご案内 >

内山節さんの著作集が7月末『自然と人間の哲学』からいよいよ刊行開始されます（農文協、全15巻、2015年12月完結予定）。

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_54014140/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54014140/)

「かがり火編集委員会」による『哲学者 内山節の世界』（新評論）も同時発売。その発刊にちなんで、内山さんを中心とするシンポジウムを開催します。

【基調講演】 内山 節

●主権はどこにあるか - - 変革の時代と「我らが世界」の共創

【農林水産業、地方自治体の現場の方を交えた パネルディスカッション】

●3・11以降の新たな「共同」がどこに向かっているかを考える。

<パネリスト>

神田強平（群馬県上野村長）

下田美鈴（熊本県山都町立図書館長、農業）

畠山重篤（宮城県気仙沼市・牡蠣の森を慕う会代表）

内山節（哲学者、立教大学大学院教授）

<コーディネーター>

濱田武士（東京海洋大学准教授）

【日時】 7月27日（日）14時～17時（開場13時30分）

【場所】 明治大学 グローバルフロント 1F多目的室

（千代田区駿河台2-1 JR御茶ノ水駅徒歩3分）

事前申込制（先着順）〆切り 7月18日

【参加費】 1000円 定員 180名

【主催】 農文協、かがり火、三人委員会哲学塾全国ネットワーク

【問合せ先】 TEL03(3585)1142 FAX03(3585)3668 農文協広報担当

お申込書はこちらから↓ FAX 03-3585-3668 までお申し込みください。

<http://an.ruralnet.or.jp/?p=4165>

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.132』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

までご連絡ください。

「\*」の記事は、山崎農業研究所のHPから読むことができます。

<http://yamazaki-i.org/>

【土と太陽と】<巻頭言>

里山と子供の成長—地域の”担い手”を育てる場としての価値論 千賀裕太郎

【第146回定例（現地）研究会】

里山再生と食の安全—放射能汚染と戦う原木しいたけ栽培

研究会の概要\*

報告(1) 風土を活かす—原木しいたけと放射能汚染 飯泉孝司\*

報告(2) 放射能汚染被害からの産地再生の取り組み 高橋恭嗣\*

識者からのコメント

(1)里山再生の意義をめぐって 塩谷哲夫\*

(2)里山の再生と持続的地域資源循環の回復 熊澤喜久雄\*

【特別寄稿】

落ち葉を通じた福島原発事故後の

里山林生態系への放射線影響 大久保達弘\*

【特集】養生の時代

3.11 福島原発事故後の『養生法』とはなにか 今村光臣\*

腐植前駆物質で土と体を守る ? 味充日兎\*

元気な身体は、生ごみリサイクル元気野菜作りから 吉田俊道\*

【連載】“生きもの語り”の世界から(4) 宇根 豊

<編集後記> これは「問答無用」ということか？

先日、子どもが通っている高校のPTAの集まりに出席した。生徒・教師・父兄に地元の方も加わって自由に意見を交わすという内容だ。

この高校は自由な校風で知られる。とともに「自主自立」がモットーでもある。議論の詳細にふれることは差し控えるが、とても活発な意見交換がなされた。

そんな議論にふれながら、ふと思ったのは“関係”という言葉である。

「自由」も「自主自立」も、1人であるならば不要な概念である。その場に意見を異にする人間たちが集うからこそ、そこに“関係”が生まれるからこそ、「自由」が問題になり、その前提としての「自主自立」が問われることになるのではないかと。

とするならば、そこにもっとも必要な態度は、相手の話をよく聞くということになるのではないかと。

7月1日、安倍内閣は集団的自衛権に関する憲法解釈の変更を閣議決定した。首相官邸前では多くの人々が「憲法こわすな」「9条守れ」「戦争するな」と声を上げた。

連立与党のひとつ、公明党は地方で意見交換会を開いたが、そこでは慎重さを求める意見が多数出たという。地方議会でも政府に慎重さを求める決議が出ているし、新聞等を読んでも、慎重派はけっして少数派でない。にもかかわらず今回の閣議決定である。

この国において憲法解釈の権限をもっているのは本来、最高裁判所のみである。首相や内閣にあるのは憲法遵守義務。とすればいったい今回の騒動はなんなのか。

五・一五事件の際、総理官邸に押し入った将校に当時の犬養毅首相は「話せば分かる」と諭したが、将校は「問答無用」と言って引き金を引いた。



今回の閣議決定は、政府による、国民に対する「問答無用」宣言なのか？

2014年07月02日

山崎農業研究所会員・田口 均

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

山崎農業研究所編・発行 / 農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)  
グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ: 大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)  
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

関良基さん(拓殖大学政経学部)

ブログ: 代替案 書評: 『自給再考 - グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

大内正伸さん(イラストレーター・ライター)

ブログ: 神流アトリエ日記(3)「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

ブログ: 本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター / 資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

日本農業新聞 / 書評

(2009/01/19 評者: 日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

小谷敏さん(大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」/「自給」の方へ(2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

白崎一裕さん((株)共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158/しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

塩見直紀さん(半農半X研究所、執筆者)

ブログ:半農半Xという生き方~スローレボリューションでいこう!

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。
- 5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 369号の締め切りは07月14日、発行は07月17日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第368号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み / 解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.07.03 (木) 発行 山崎農業研究所 & 編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*